

学生から専門家まで役に立つ尿及び体液検査のバイブル

ブルンツェル 尿・体液検査  
—基礎と臨床—

Fundamentals of Urine & Body Fluid Analysis

Nancy A. Brunzel, MS, CLS (NCA) 著  
池本 正生、深津 敦司、芝 紀代子 監訳

B5判, 315頁, 定価 3,990円(税共),  
出版社: 西村書店(新潟) 2007年発行

一般検査は診療の最初に行われる基本的な検査で、病気の早期診断に欠かせない検査ですが、体系的及び学問的に整理・解説されている教本は見当たりません。尿検査は化学的検査と顕微鏡による沈渣の形態学的観察に依存するところが大きいです。本書の特徴の一つは、顕微鏡の基本構造と光の性質、精度保証、安全性の解説から始まり、とくに顕微鏡によって尿沈渣がどのように観察されるのかをあらゆる角度から詳しく解説している点です。また各章においては、最初に学習すべき項目、到達目標、そして重要語句を掲載することによってその章の概略を容易に把握でき、また新規に用いられた用語とその意味を理解しやすくなるように配慮されています。

第二の特徴は、尿及び体液(羊水、髄液、精液、漿液、滑液、膾分泌液、糞便)検査を全般にわたって取り上げ、尿の化学的成分及び尿沈渣に見られる多くの成分の形成過程を生化学的、病理学的、そして生理学的観点から論理的に、そして包括的に関連づけながら解説している点です。したがって、尿検査が意味する重要性についてより体系的に病態を捉えることができます。また、尿検査による疾病の発見に必要な常用検査法について、それぞれの測定原理を詳細に説明し、学生にも十分理解できるように配慮されています。このように、本書は単に尿沈渣の形態学的判別だけでなく、尿の化学的検査法の理論的根拠に基づいて、腎疾患及びその他の関連疾患の検査診断における尿沈渣のもつ病理学的意義をダイナミックに、かつ包括的に捉えることを可能にします。

第三の特徴として、著者の述べるところでは、尿沈渣に見られる成分は典型的な形態を示すことはごく稀であり、同じ成分であっても刻々と変化するため、このような尿沈渣の多様性に対応すべく豊富な症例に関する尿沈渣の顕微鏡写真を紹介し、詳細に解説している点があげられます。とくに、巻末に掲載されている尿沈渣のカラー顕微鏡画像は視覚的にも非常に分かりやすく、また普段見られないような貴重な写真が多いことも本書の特徴です。

以上述べましたように、尿の化学的検査及び尿沈渣による形態学的検査に基づいて、主に腎臓病を中心に関連する疾患の診断を可能にする尿検査の重要性が理論的に解説されています。本書は、検査の専門家だけでなく臨床医を含む医療従事者が現場ですぐに役に立つように構成されており、その中でも学生などの初学者にとってはバイブル的な教本として大いに助けになると思われます。

(片山善章: 神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 y-katayama@kobe-tokiwa.ac.jp)